

たまたれ

通巻 第36号



拝殿 格天井の「白象」

頌
春

宮司 竹間 宗磨

平成二十九丁酉歳を迎えて、先ず以って、聖寿の御安泰を言祝ぎ、皇室の御安寧、氏子崇敬者をはじめ、皆様方の御健康、御隆昌を御祈り申し上げます。

昨年を振り返れば、衝撃的なニュース映像が今でも目に焼き付いております、熊本地震の発生、またさらに多くの地域が風水害に見舞われましたことは忘れてはなりません。

何よりも、あの八月八日、今上陛下には、御讓位ついての御意向を示され、さらに恐れ多くも我々国民への思いについても御披瀝なされたことは、感動を禁じ得ないものがございました。今後我々国民一人一人も、常に陛下と共に在るという自覚自信を以てそれぞれの務めに励まねばならないとの思いを深く致しました。当社に於きましては、平成の大修理事業を継続して行い、御社殿御屋根の葺き替えが始まり、また斎館授与所新築工事も着工となりました。

いよいよ今年十月には、本殿遷座祭を斎行致します。そのため、職員一同、諸事万端遗漏なきを期して奉仕して参ります。

皆様方には、今暫く、境内工事による御不自由を御許し願いますと共に、大修理事業完遂のため、引き続き御協力を賜わりますよう、更めて御願い申し上げます。

今年一年が、皆様方にとりまして、素晴らしい一年となりますよう祈りつつ、年頭の御挨拶と致します。

たまたれ



千珠・満珠の形をした「宝珠みくじ」

毎年授与に行列のできる「玉替祭」は、江戸時代の弘化二年（一八四五）に始まつた高良山の伝統神事であります。本年は一月十五日（日）に斎行します。

その年の運を占う「宝珠みくじ」がこの日に限り授与されます。玉替祭はその昔、高良の神様が千珠・満珠という玉を使い、神功皇后様をお助けしたという故事に基づいて行われます。

午前九時から始まる祭典の終了後、宝珠みくじの授与が開始され、社頭には新年の幸運を願う人々が行列をなし賑わいます。



鏡開き

お正月に本社を始め、摂末社に供えした鏡餅を下げる開く鏡開祭は、厄除け、延命の祭りとして古くから行われてきました。江戸時代までは、高良山に属する僧侶の法事がこの日に行われ、国家安泰の祈祷を修して鏡開きを行っていました。

境内では温かい善哉が参拝者にふるまわれ、大いに賑わいをみせます。

寒の最中のこの日、御社殿での祭典終了後、宮司と共に還暦を迎えた祈願者二名が鏡開きを行い、世話役の方々が装束を着けて上津地区から松苗を高良大社まで運び、祭典の後、社殿裏山に植樹します。この神事はかつて高良の神様が、高良山に御鎮座される際に松をお植えになったという故事伝承に由来しています。



祭事のご案内 〔一月より〕

■玉替祭 一月十五日

■鏡開祭 一月二十一日

■子の日松神事 二月五日



松苗の植樹

鎌倉時代初期に起源をもつといわれる子の日松神事は、毎年正月初子の日に行われてきました。明治二年以降途絶えていたこの祭りは、上津四地区（上津、本山、千束、二軒茶屋）の方々の奉仕とご協力により平成十二年に再興され、以来毎年その地区の児童と世話役の方々が装束を着けて上

津地区から松苗を高良大社まで運び、祭典の後、社殿裏山に植樹します。この神事はかつて高良の神様が、高良山に御鎮座される際に松をお植えになったという故事伝承に由来しています。

謹賀新年 高良大社

宮司
代表役員

竹間
責任役員

宗磨
同

川村
飯籠
同

謙二
実

赤司
同

昌生
同

緒方
同

永済
同

義範
同

俊毅
同

恭行
同

正徳
同

延峰
同

徹也
同

光弘
同

義明
同

大石
同
平田
同
相談役
同
彌永
同
黒岩
同
渡辺
同
町田
同
中島田
同
正徳
同
延峰
同
徹也
同
光弘
同
義明
同

たまたれ

紀元祭

二月十一日

建国記念日に行われるこの祭典では、日本國の建国を祝い、皇室の弥栄、國の隆昌安泰を祈念します。

■ 祈年祭

二月十七日

祈年祭とは、「としごいのまつり」と読み、全国の多くの神社で行われます。お米をはじめとする五穀豊穰、皇室の弥栄、産業の発展、国家・国民の繁栄を祈る祭典で、高良大社四大祭の一つです。このお祭りは十一月の新嘗祭と対になる形で、我が国では古くから重要な祭祀とされています。

■ 昭和祭

四月二十九日

昭和天皇の御聖徳を仰ぎ、国の繁栄を祈念します。

また、この時期は本殿横の久留米つづじ原木群の花開く季節と重なるため境内にて久留米つづじの苗木をお頒かちします。

いずれの祭典も皆様にはどうぞお参り下さい。

※その他願意もご相談下さい
※祈願初穂料 個人五千円以上
団体一万円以上

祈願祭のご案内

一年の計は元旦にあり

歳の初めに室内安全・事業繁栄・

厄除等の御祈願をお受け戴き、此の一年が皆様にとりまして幸多き歳となりますようご案内申し上げます。

又お正月に限らず、月初め・年度始め、年間を通してお受け致します。

高良の大神様は古くより厄除・延命長寿の靈験あらたかとされており、生活万般を御守護下さる神様と広く信仰されております。

〔祈願種目〕

◆ 家内安全 ◆ 商売繁盛

◆ 厄年祓 ◆ 還暦算賀

◆ 交通安全 ◆ 諸障退散

◆ 身体健康 ◆ 傷病平癒

◆ 子宝恵授 ◆ 安産子育

◆ 初宮詣 ◆ 七五三詣

◆ 学業成就 ◆ 受験合格

平成二十九年厄年一覧

(年齢は数え年です)

男性の厄年

| | | |
|--------|-----|----|
| 昭和三十三年 | 60才 | 厄入 |
| 昭和三十一年 | 62才 | 厄明 |
| 昭和三十二年 | 61才 | 厄祓 |
| 昭和三十三年 | 60才 | 厄入 |
| 昭和五十年 | 43才 | 厄明 |
| 昭和五十一年 | 42才 | 厄祓 |
| 昭和五十二年 | 41才 | 厄入 |
| 昭和五十三年 | 40才 | 厄祓 |
| 昭和五十四年 | 39才 | 厄入 |
| 昭和五十五年 | 38才 | 厄明 |
| 昭和五十六年 | 37才 | 厄祓 |
| 昭和五十七年 | 36才 | 厄入 |
| 昭和五十八年 | 35才 | 厄明 |
| 昭和五十九年 | 34才 | 厄祓 |
| 昭和六十一年 | 33才 | 厄入 |
| 昭和六十二年 | 32才 | 厄明 |
| 昭和六十三年 | 31才 | 厄祓 |
| 昭和六十四年 | 30才 | 厄入 |
| 昭和六十五年 | 29才 | 厄明 |
| 昭和六十六年 | 28才 | 厄祓 |
| 昭和六十七年 | 27才 | 厄入 |
| 昭和六十八年 | 26才 | 厄明 |
| 昭和六十九年 | 25才 | 厄祓 |
| 昭和七十一年 | 24才 | 厄入 |
| 昭和七十二年 | 23才 | 厄明 |
| 昭和七十三年 | 22才 | 厄祓 |
| 昭和七十四年 | 21才 | 厄入 |
| 昭和七十五年 | 20才 | 厄明 |
| 昭和七十六年 | 19才 | 厄祓 |
| 昭和七十七年 | 18才 | 厄入 |
| 昭和七十八年 | 17才 | 厄明 |
| 昭和七十九年 | 16才 | 厄祓 |
| 昭和八十一年 | 15才 | 厄入 |
| 昭和八十二年 | 14才 | 厄明 |
| 昭和八十三年 | 13才 | 厄祓 |
| 昭和八十四年 | 12才 | 厄入 |
| 昭和八十五年 | 11才 | 厄明 |
| 昭和八十六年 | 10才 | 厄祓 |
| 昭和八十七年 | 9才 | 厄入 |
| 昭和八十八年 | 8才 | 厄明 |
| 昭和八十九年 | 7才 | 厄祓 |
| 昭和九十一年 | 6才 | 厄入 |
| 昭和九十二年 | 5才 | 厄明 |
| 昭和九十三年 | 4才 | 厄祓 |
| 昭和九十四年 | 3才 | 厄入 |
| 昭和九十五年 | 2才 | 厄明 |
| 昭和九十六年 | 1才 | 厄祓 |
| 昭和九十七年 | 0才 | 厄入 |

高良大社総代会

本村 康人

原口 劍生
十中 大雅

龍頭 宏典
喜多村 浩司
江崎 正昭

佐藤 清一郎
菊池 康男
丸田 宏幸
藤吉 春義
古賀 忠男
山下 照之
豊福 政美
金子 賢二
佐藤 栄一郎
加藤田 九洲男

別府 好幸
井上 傳一
藤吉 德隆
岩寄 義和

※厄年に関わらず、厄除祈願もお受けしております



献酒献樽・献饌・献灯者芳名

(敬称略・順不同)

■ 献酒献樽・献饌者芳名

新玉の年之初めに御神前への真心
からなるご奉納を戴きました。

アサヒコーコーポレーション
福岡酸素株式会社

株式会社ニシイ
喜多村石油株式会社

株式会社ニシケン
大電株式会社

株式会社エサキ自動車
彌永税理士事務所

文殊保育園
木のぬくもり館有限会社ログ工房ハシモト

中川建材株式会社
りくだい株式会社

株式会社えがみ塗装
九州防水株式会社

西日本シティ銀行
てしま整骨院

大洋工務店
大牟田自然を守る会

権藤写真館
上野クリーニング店

株式会社筑陽電設
森光健

株式会社ログ工房ハシモト
木匠中村建設

幸鮎
ツジ胃腸科医院

株式会社キュー・セツ
池亀

株式会社御井地所
萬年亀

自立サポートみい合同会社みい工房
大至産業有限会社

ご崇敬各位より参道本坂両側に掲
げた灯籠をご奉納戴きました。

■ 献灯者芳名

瑞穂錦
鷹正宗
千年乃松
庭の鶯
山の壽
三井の寿
飛龍
若の壽
紅乙女
磯乃澤
喜多屋
繁栄
杜氏の詩
萬年亀
池亀
花の露
比翼鶴
比翼鶴酒造
若波
天吹
鮮魚
野菜果物
久留米青果市場

中央製袋株式会社
株式会社ブリヂストン久留米工場
株式会社ムーンスター
井樋建設株式会社

渡辺プロパンガス株式会社
秋吉内科
井手運送有限会社
株式会社西日本企画サービス

サクラみそ食品株式会社
衛専株式会社
木匠
津福工業株式会社
丸永製菓株式会社
とまと運送有限会社
森光健

姫野酒店
赤坂食料品店
御井町郵便局
島機械センター
姫野パーキングビル
香和印刷株式会社
有限会社やなぎ亭
株式会社キンジョウ
有限会社マイスター
有限会社末崎計量器
天勝

吉金菓子舗
株式会社S.I.C.
株式会社木下楽器店
デュオ

川村産業株式会社
宗右衛門寿司
株式会社松本商店
株式会社M.S.1
黒岩延峰公認会計士事務所
株式会社モダン
久留米紙器工業株式会社
株式会社アンネ松本
ヒルン

川村設備
日吉プリント社
株式会社筑水管材
角消防設備株式会社
日吉エスエフ
日吉アントラント
株式会社近藤建設
ミスター・ジョージ
有限会社石井ガス機器
森山整形外科院
杉村設備
株式会社立山自動車工業
京屋

藤山自動車
宮原運輸株式会社
株式会社坂田ガス住設
夕悠

丸田皮膚科
東亞染工株式会社
立花うどん
有限会社工ヌ・エヌ設備
アクリア企画株式会社
株式会社古賀住設
古賀住設グループ
金子建設株式会社
有限会社トヨテック
株式会社大成

姫野酒店
赤坂食料品店
御井町郵便局
島機械センター
姫野パーキングビル
香和印刷株式会社
有限会社やなぎ亭
株式会社キンジョウ
有限会社マイスター
有限会社末崎計量器
天勝

吉金菓子舗

株式会社S.I.C.

株式会社木下楽器店

デュオ

川村産業株式会社

宗右衛門寿司

株式会社松本商店

株式会社M.S.1

黒岩延峰公認会計士事務所

株式会社モダン

久留米紙器工業株式会社

株式会社アンネ松本

ヒルン

川村設備

日吉プリント社

株式会社近藤建設

ミスター・ジョージ

有限会社石井ガス機器

森山整形外科院

杉村設備

株式会社立山自動車工業

京屋

藤山自動車

宮原運輸株式会社

株式会社坂田ガス住設

夕悠

丸田皮膚科

東亞染工株式会社

立花うどん

有限会社工ヌ・エヌ設備

アクリア企画株式会社

株式会社古賀住設

古賀住設グループ

金子建設株式会社

有限会社トヨテック

株式会社大成

秋冬祭事ご報告



高良山くんち

十月九日(日)

神生祭 午前零時

高良の大神様のご神威を新たに戴くお祭「神生祭(かんあれさい)」が山内にて厳粛に行われました。

例大祭 午前十時半

高良山において一年で最も大きな祭典。 神賑として久留米喜多流奉賛会による謡曲や高良山十景舞保存会による舞が奉納されました。 境内では高良山同志会の獅子舞、日本民謡協会大川支部による民謡、新極真会久留米道場の空手演武が奉納されました。

十月十日(月)

崇敬会大祭 午前十時半

崇敬会員の皆様が日頃の御神恩に感謝し、更なる大神様の御加護を祈念しました。表千家不白流奉仕による献茶式が奉納され、境内では参拝者に薄茶の接待がありました。また、神影流心氣道の

- ・箏曲 生田流正派
- ・和太鼓 御井鼓舞組
- ・雅樂 高良大社雅樂同好会
- ・柳川日吉太鼓 柳川日吉神社
- ・久留米にわか
- 久留米にわか保存会

日吉ぎんなん社中

- ◆弓道大会 小笠原流馬術同門会による「百々手式」が境内特設弓道場にて奉納され、第四十六回高良山弓道大会が開催されました。
- ◆観月祭 午後六時 祭典は大神様が仮殿へお遷りになつて以来の御本殿での斎行でした。御本殿では久留米喜多流奉賛会による仕舞、生田流正派による箏曲、筑前琵琶保存会による琵琶、錦城流、加藤城勲師による詩吟が奉納されました。
- 境内での奉納行事



高良山くんち

| |
|------------------|
| 十一月三日 (木) 明治祭 |
| 十一月十五日 (火) 七五三祭 |
| 十一月二十三日 (水) 新嘗祭 |
| 十二月一日 (木) 鎮火祭 |
| 十二月二十二日 (木) 煤払い祭 |
| 十二月二十三日 (金) 天長祭 |
| 十二月二十六日 (月) 門松神事 |
| 十二月三十一日 (木) 大祓式 |
| 除夜祭 |

吉例によります、高良山おくんち前後の神賑行事につきまして左記にご報告致します。

高良山おくんち神賑 さつき盆栽秋季展】

九月三十日(金)

(十月二日(日)の三日間)

毎年、中門透塀内の特設展示場で開催しておりましたが、本年は御社殿御屋根替え工事に伴い、高良会館6階展望所にて展示致しました。

*末社・兼務社の祭事

十月十六日 (日)

大学稻荷神社稻荷教秋季大祭

十月二十日 (木)

山川招魂社秋季大祭

十一月十三日 (日)

境内・外撰末社十三社例祭

十二月八日 (木)

大学稻荷神社冬籠祭

神賑行事のご報告

- ◆ 第五回 高良山写真展 (十一月二十七日(日))
 - 十月十五日(土)
 - 十一月二十七日(日)
- 今 回で五回目を迎えた高良山写真展も三十九名・九十点の写真奉納がありました。
- 前記、さつき盆栽展示同様に、御社殿御屋根替え工事に伴い、高良会館6階展望所にて展示し、引き

たまたれ



高良大社宮司賞
大串淳氏「高良大社・夜のおとずれ」

続き久留米ゆめタウンに於いて、
全作品を展示致しました。

次回、第6回の写真展につきま
しても、多数のご応募を心よりお
待ち申し上げております。

主な入賞者(敬称略)

・高良大社宮司賞

大串 淳

「高良大社・夜のおとずれ」

・高良大社崇敬会会長賞

福本 熱

「御神木の薄化粧」

・福岡県知事賞

堀 美子

・福岡県議会議長賞

白木 勇三郎

・久留米市長賞

古賀 恵美子

・西日本新聞社賞

金子 修一

・審査委員長賞

箕浦 イルマ G

平成の大修理工事状況報告

平成二十七年十月二十七日に、
本殿より仮殿にお神様をお移し
申し上げてより、二回目のお正月
を迎えます。

その間、皆様には、日々のお参
り等何かとご迷惑をおかけいた
しておりますこと、この場をおか
りいたしましてお詫び申し上げ
ます。

さて、前回の報告では、簡単に
七月から九月までの状況を報告
いたしましたが、今回は、十月、
十二月までの状況を報告いたし
ます。十月に入り当社では例大祭・
崇敬会大祭等多くの祭典が斎行
されました。お屋根替え工事は、
職人さん達により順調に工事(こ
けら板の打ち付け)が進められて
います。その状況を十一月に放送
された和風総本家(テレビ東京系)
にて、当社の工事状況をご覧頂い
ます。方々も多いのではないかと思
います。

十一月に入つてからは、本殿、
拝殿内の漆の塗りも並行して進
められており、本年秋の完成に向
けて大変寒い中、職人一同頑張っ
ています。

十月二十一日から本格的に工
事が始まり、基礎工事、コンクリ
ート打ち等進み更地の状態から
かなり空間把握が出来るほど工
事が進んでおります。また建物
の水平をとる為に、高低差は、一
五〇cmにもなる場所も出ており
今からどんな建物になるか樂し
みであります。



拝殿漆工事



久留米市による発掘調査

また、お屋根工事と並行して
行っている斎館授与所(お守り等
を頒布している場所)の工事は、
八月二十五日に、地鎮祭が斎行さ
れてから、久留米市文化財保護課
による埋蔵文化財調査が約一ヶ
月半行われました。調査では、室
町時代の土器等も発掘され終了し、
工事再着手となりました。



斎館授与所基礎工事

今後は、社殿お屋根工事は、正月
から三月にかけて屋根のこけら板
の葺き込み作業が引き続き行わ
れます。斎館・授与所に関しては、全
体の骨組みが出来上がった後、二月十
五日に上棟祭が行われます。会館一
階のトイレの建設も始まる予定です。
また、ホームページ等で工事状況
の公開も致しておりますのでご覧
下さい。

是非、冬の高良大社にお参り戴き工
事の進捗状況をご確認いただけれ
ば幸いです。

皆様の御参拝お待ちしております。

高良大社 平成の大修理事業奉賛者 芳名簿

(平成二十八年九月二十一日より平成二十八年十二月十五日まで 敬称略・順不同)

| | |
|---------|-----------------|
| 一千万円以上 | • 梅野 重俊 |
| 三百万円以上 | • (株)ユーコー |
| 二百万円以上 | • ムライケミカルパック(株) |
| 五百万円以上 | • 久留米花卉園芸農業協同組合 |
| 十萬円以上 | • 久光製薬(株) |
| 矢取西自治会 | • 谷口 一子 |
| • 豊福 政美 | • 井上 傳一 |
| • 木下 伸彦 | • 丸田 宏幸 |
| • (株)三和 | • (株)古賀歯車製作所 |
| • 溝田 伸一 | • 田中 信男 |
| • 大渕 寛 | • 久留米喜多流奉賛会 |

| | |
|-------|------------------|
| 三万円以上 | • (有)尾道屋 そのだ歯科医院 |
| 三万円以上 | • (株)ユートエス・イー |
| 三万円以上 | • 近藤社会保険労務士事務所 |
| 三万円以上 | • 青柳 勝美 |
| 三万円以上 | • 京都奉製(株) |
| 三万円以上 | • 橋本 勝芳 |
| 三万円以上 | • 橋本 静香 |
| 三万円以上 | • 橋本 武典 |
| 三万円以上 | • 橋本 亮 |
| 三万円以上 | • 平塚 達之 |
| 三万円以上 | • 平塚 幸子 |
| 三万円以上 | • 平塚 千晶 |
| 三万円以上 | • 末安 由美 |
| 三万円以上 | • 末安 寧々 |
| 三万円以上 | • 末安 武 |
| 三万円以上 | • 末安 光晴 |
| 三万円以上 | • 池口 義尚 |
| 三万円以上 | • 岡部 龍夫 |
| 三万円以上 | • 加月 駿平 |
| 三万円以上 | • 加月 隆一 |
| 三万円以上 | • 龍頭 宏典 |
| 三万円以上 | • 谷口 真弓 |
| 三万円以上 | • 木下 宇和 |
| 三万円以上 | • 堀 紀文 |
| 三万円以上 | • 木下 佐久美 |
| 三万円以上 | • 木下 須山 |
| 三万円以上 | • 木下 雅義 |
| 三万円以上 | • 柿添 有二 |
| 三万円以上 | • 川島 しのぶ |
| 三万円以上 | • 田中 通 |
| 三万円以上 | • 栗屋 通 |

| | |
|-------|------------------|
| 一万円以上 | • 青木 松子 |
| 一万円以上 | • 青木 妙代子 |
| 一万円以上 | • 古賀 照敏 |
| 一万円以上 | • (株)丸よし |
| 一万円以上 | • 大石 富士子 |
| 一万円以上 | • 大石 真大 |
| 一万円以上 | • 大石 祐子 |
| 一万円以上 | • 大石 晋也 |
| 一万円以上 | • 大石 朱理 |
| 一万円以上 | • 九州ホームケアサービス(株) |
| 一万円以上 | • 古田 寿 |
| 一万円以上 | • 原 公一 |
| 一万円以上 | • 豊福 秀徳 |

| | |
|--------------------|-----------|
| • 豊福 伸一 | • 西川 善吉 |
| • (株)サンセレモホールディングス | • (有)今村機械 |
| • 副島 豊 | • 野口 瞳子 |
| • 赤司 内科医院 | • 野村 静子 |
| • 古賀 正三 | • 森 日出雄 |
| • 権藤 猛 | • 小原 降 |
| • (有)廣松突板 | • 古賀 駿介 |
| • 豊福 功 | • 中尾 定利 |
| • 藤本 一 | • 稲垣 トシ子 |
| • 青柳 正嗣 | • 辻 明子 |
| • 藤本 繁俊 | • 森 紗代 |
| • (株)ステップ | • 星野 敬二 |
| • 諸藤 繁俊 | • 中山 徳嗣 |
| • (株)ステップ | • 中山 よしお |
| • 熊丸 信子 | • 中山 テル子 |
| • 一瀬 時美 | • 伊藤産業(株) |
| • 青柳 敬二 | • (株)天年堂 |
| • 藤本 一 | • 今村 龍子 |
| • 中山 徳嗣 | • 大島 龍子 |
| • 中山 よしお | • 高田 紀治 |
| • 中山 テル子 | • 大島 孝雄 |
| • 伊藤産業(株) | • 諸富 春敏 |
| • (株)天年堂 | • 原 邦秀 |
| • 今村 龍子 | • 柏原 邦秀 |
| • 大島 龍子 | • 豊福 春敏 |
| • 高田 紀治 | • 諸富 春敏 |
| • 大島 孝雄 | • 原 邦秀 |
| • 諸富 春敏 | • 豊福 秀徳 |



高良山通信

功労者表彰（敬称略）

高良大社へのご功績に感謝申し上げ、十一月二十三日の新嘗祭の佳き日に顕彰申し上げました。

《献米世話人表彰》

二十五年功労表彰

久留米市藤山町下村

豊福 勝之

久留米市大橋町 佐藤 富一

柳瀬 磨

杵島郡白石町 石橋 勝

山口 善巳

久留米市山川町竹の子 豊福 豊喜

《功労者表彰》

永年に亘り川渡祭及び高良山おくんちにさつき盆栽展を奉納された

久留米さつき趣味の会

山田 平男

大和さくらの会 岡部 拳

高良山の山内に桜の木三十本を植樹奉納された

年会費

個人会員
正会員

三、〇〇〇円以上

賛助会員
正会員

一〇、〇〇〇円以上

法人会員
賛助会員

一〇、〇〇〇円以上

正会員

三〇、〇〇〇円以上

内申し上げます。
ための本会の趣旨にご賛同いた
だき、ご入会下さいますようご案
内申し上げます。

- 每朝の日供祭にて会員皆様のご安泰ご隆昌を祈願致します
- 特別参拝が出来ます
- 会主催の行事に御案内致します
- 崇敬会大祭に御案内致します
- 五年以上奉仕退任者表彰
- 五年以上奉仕者表彰
- 久留米市大橋町 中村 康胤 内海 明紀
- 八女郡広川町 末安 良行
- 御井町高良内町地区代表者特例 金子 賢二
- 平成二十七年度 御井農事組合長

《職員表彰》

高良大社禰宜

内海 明紀



崇敬会入会のご案内

鎮守の杜

● 新年明けまして御目出度御座います。

丁酉の新春を迎えました。

酉は鶏とされていて、酉は夜明けを告げる。太陽を迎える靈鳥とされました。

神話では天照大御神様が天岩戸に籠られ際に、その前に常世の長鳴鳥（鶏）を集め鳴かせたと伝えます。

またその鶏を止らせたのが鳥居の端とも云われています。

畏れ多くも伊勢の神宮では式年遷宮にて大御神様が旧のお宮から新宮へお出しましの際に鶏鳴三声といつて神職が鶏の鳴き声を発する作法があります。

当社にても一晩中に大石で山を囲めば鬼に高良山を譲るとして山のを高良大神様が鶏の姿となり夜明けを告げ、鬼を退散させた神籠石伝説があります。

宮へお出しましの際に鶏鳴三声といつて神職が鶏の鳴き声を発する作法があります。

当社にても一晩中に大石で山を囲めば鬼に高良山を譲るとして山のを高良大神様が鶏の姿となり夜明けを告げ、鬼を退散させた神籠石伝説があります。

高良大社は、高良玉垂命・住吉大神・八幡大神の三柱を祀る、筑後国一之宮であり、その歴史は、古く御創建は西暦四〇〇年頃と伝えられています。また、高良大社には、国指定重要文化財など宝物、史跡が大切に護られて居ります。その祖先より受け継がれてきた歴史と郷土遺産を守り後世に伝えるための本会の趣旨にご賛同いただき、ご入会下さいますようご案内申し上げます。

さて、一昔前の農村ではどこの家でも鶏が飼われておりました。卵や肉も頂いたものです。また小型のチヤボや軍鶏はその姿の可愛さや勇ましさを愛で、お年寄り達は互いに見せあつたり、交換し楽しんでおりました。我が家でも祖父が鶏好きで常に三十羽近く飼育し、朝一番に餌やりと卵を取りに鶏小屋に通いました。ひよこが生まれると嬉しくて朝は勿論のこと下校してからも鶏小屋に入り見入ったものです。今でも鶏をみると子供の頃の懐かしさと祖父との思い出が蘇ります。

● 本年はいよいよ正遷座祭がまいります。鶏鳴によつて世の中が明らかになるよう高良大神様の御神威もいやちことなり、より一層の皆様のお幸せをお祈り申しあげます。（長）

「たまたれ」 通巻三十六号

平成二十九年一月一日発行

発行者／高良大社社務所

福岡県久留米市御井町一番地
電話〇九四二一四三一四八九三
FAX〇九四二一四三一四九三六